

焼却場の建設が進む陸前小泉

(RQ聞き書きチームMEMOKKO 12月3日のブログより抜粋)



今日来てみたら、なんともうそこに焼却施設の本体らしきものが姿を表していました。ごみ処理の問題は急務ですが、いままでそんなものがなかった場所に、明らかに異質な、本当に「ある目的」のためだけに作られた建造物が建つということは、これほどインパクトがあるものかと改めて思いました。まるで野原に要塞が降り立ったが如くです。



陸前小泉駅周辺には、昨年の年末あたりまで、広範囲にわたってねじ曲がった道路標識や家財道具が散乱し、なかなか片付かないところがありました。しかし、ここ数ヶ月でそこはきれいに片付き、代わって工事車両がたくさん入るようになりました。



いま、被災地と呼ばれる場所では、瓦礫を種類別に分けて山と積んだ状態です。どこにも持って行くことはしないで、ここで処理をします。先日は運び込まれた被災地の瓦礫が、行った先で押し戻されるということもありました。是非はここでは論じませんが、現実的にはこの瓦礫を毎日、毎日、見ながら生活をしている人々が依然としているということから、目を背けることはできないと思います。



←参考写真:宮城県大島の小田の浜海水浴場付近にて きれいに分別され処理を待つ瓦礫の山(すけさきた2012年処暑朔日号より 撮影:MOK)



we support!

RQ
災害教育センター

復興支援
かわらばん

すけさきた

しんぶん

冬至朔日

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である